

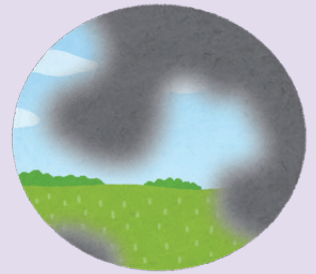
大切な目を守りましょう ～緑内障のこと～

教えてドクター

Q&A

Q：緑内障とはどんな病気ですか。

A：眼球から脳へと視覚情報を伝えている視神経が障害されて、視野が欠けてしまう病気です。日本人の失明原因の第一位となっており、40歳以上の20人に1人の割合でかかるといわれています。原因として、一般的には眼圧との関連が考えられています。眼圧が高いほど、相対的には、病気の進行が速くなる傾向があります。しかし、眼圧が低い方も、緑内障になってしまう場合もあり、単純に眼圧が高い、低いだけでは緑内障かどうかを判断することはできませんので、健診や眼科でも診察が必要です。



Q：緑内障の症状とはどのようなものですか。

A：視野が欠けてきます。また、視野欠損が中心近くまで及ぶと視力低下をきたします。残念ではありますが、進行した神経障害が回復することはありませんので、緑内障の症状も原則的に回復することは望めません。緑内障は自分で視野欠損に気付くことは困難です。逆に言うと、自分で気付くような視野欠損は緑内障がかなり進行してしまった状態となりますので、健診などを利用して、症状がないうちに緑内障が疑わしいかどうかを調べておくことが大切です。

Q：緑内障にならないための予防法はありますか。

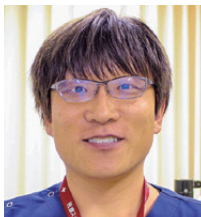
A：残念ながら、日常生活の注意や生活習慣で、緑内障の予防法はありません。

Q：治療法にはどんなものがありますか。

A：治療の目的は神経障害を進まないようにするために、眼圧を下げるのが中心です。（神経障害を回復させる手立てはありませんので、病気を根治させる治療方法はありません。）眼圧を下げる方法として、薬物療法と手術があります。また、薬物療法が治療の中心で、薬に効果がない場合に手術を行います。近年は薬の選択肢が増えてきており、多くの場合は目薬をつけることだけで治療ができることがほとんどです。



矢部先生から
ひとこと



眼科 部長
矢部 文顕 先生

緑内障は予防というよりは、早期発見早期治療で失明を防ぐことが可能です。まさにこのことが、長寿社会で皆さんが失明することがないように知っておいて頂きたい事実です。

そのために、皆さんお願いしたいことは

- ①健診を受ける（一般的なもので大丈夫です）。
- ②健診で緑内障が疑われたら、早めにお近くの眼科に相談する。
- ③万一、緑内障になってしまったら、必ず決められた目薬を決められた使い方を使用する（薬によっては、つける回数を増やすと逆に効果が弱まってしまうものまでありますので注意を！）。
- ④緑内障は慢性疾患ですので、診察のたびごとの眼圧に、細々と一喜一憂する必要はありませんが、眼科との縁をくれぐれも切らずに長く通院を継続してください。